

情報組織化研究グループ月例研究会
2025年12月20日(土) 14:30-16:00
オンライン

アーカイブズと「組織化」私(試)論 ——編成・記述はなぜ厄介なのか？

平野 泉

立教大学共生社会研究センター プロジェクト・アーキビスト

izhirano@rikkyo.ac.jp

報告の流れ(いわば芋づる式に…)

1. はじめに(用語の整理など)
2. ヒラリー・ジェンキンソンのマニュアル
3. ポール・オトレのマニュアル
4. ふたたび英国:業務の「主題分類」とレジストリー
5. おわりに

1. はじめに

- ・情報組織化研究グループの研究領域（ウェブサイトより）

「資料の組織化」&「情報の組織化」

⇒アーカイブズの 「編成」 「記述」 …かな？

というわけで、「編成」「記述」のお話を…

1. はじめに:「アーカイブズ」とは

「アーカイブズは、人間の活動の副産物として生まれ、長期的価値ゆえに保存されるドキュメントです。個人や組織の日常的な生活や活動の過程で生まれる記録(records)は、過去のできごとについて直接的な洞察を得ることを可能にします。

人びとと同じく、アーカイブズは多様です。フォーマットも、テキスト、写真、ビデオ、音声、アナログやデジタルなど様々です。アーカイブズは世界中の個人や組織(公的・私的)が保有しており、アーカイブズを収める建物も、しばしば「アーカイブズ」と呼ばれます。」

International Council on Archives, "What are archives?"

<https://www.ica.org/discover-archives/what-are-archives/>

1. はじめに：アーカイブズ学とは

対象：記録(records) = “process-bound information”

目的：「アーカイブズの質」(archival quality)の確立と維持

記録、それを生み出す業務プロセス、そしてそれらの相互的な結びつきを最良の形で可視化し、持続させること

方法：記録された情報について、その形式(form)、構造(structure)、出所に関するコンテキスト(provenancial context)と、その機能との結びつきを分析し、記録し、維持すること。

(Thomassen, 2001, p.382)

1. はじめに：アーカイブズ学とは

方法：記録された情報について、その形式（**form**）、構造（**structure**）、出所に関するコンテキスト（**provenancial context**）と、その機能との**結びつき**を分析し、記録し、維持すること。

形式：情報が単一の記録内にどう組織化されているか

構造：記録の総体であるアーカイブズがどう組織化されているか

コンテキスト：記録／アーカイブズが生成・利用・管理される現実（人や業務やシステムやルール）がどう組織化されているか

1. はじめに:アーカイブズの「編成」とは

「[英]arrangement

アーカイブズ資料の**コンテキストを保護**し、アーカイブズ資料の物理的または知的コントロール (intellectual control) を実現するために、アーカイブズの原則に従って文書を分析し、組織化するプロセス。アーカイブズの原則としては、出所の原則、原秩序尊重の原則、フォンド尊重の原則等が挙げられる。」 (アーカイブズ学用語研究会, 2024, p.367)

コンテキストとアーカイブズの構造との結びつき
→アーカイブズの組織化

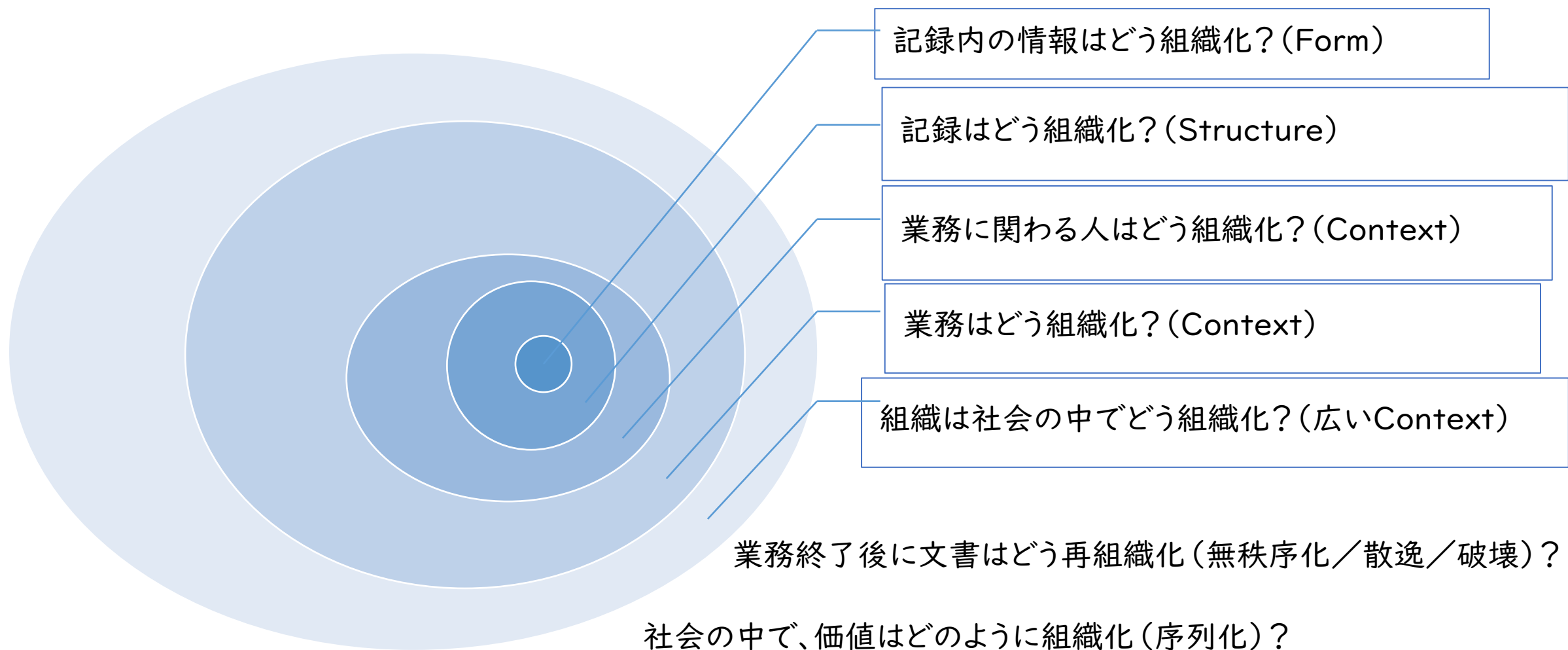
1. はじめに：アーカイブズの「記述」とは

「アーカイブズ資料を識別し、管理し、所在を示すこと、アーカイブズ資料の内容および生成のコンテクストを説明することに役立つあらゆる情報を、選択し、分析し、組織化することにより得られる、ある記述単位とその構成部分（存在すれば）の正確な表現。この用語は、そうした表現の作成過程と、その成果の双方を指す。」

(International Council on Archives, 2000(F), p.11)

コンテクストとアーカイブズの構造の結びつきを表現している編成を、文字で表現する
＝アーカイブズとコンテクストに関する情報の組織化

1. はじめに：アーキビストがアーカイブズに向き合うとき



「人びとと同じく、アーカイブズは多様です」

→つまり、どのアーカイブズもそれなりに厄介

1. はじめに：アーカイブズの組織化

- 「分類」を目指した時期もあったが、19世紀半ば～（一）
- classificationではなくarrangement=進化論のイメージ

1. はじめに：アーカイブズの組織化



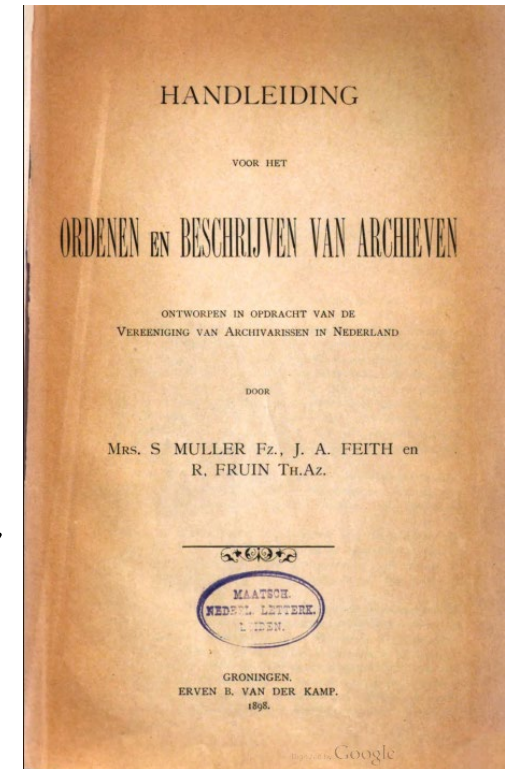
A.R. ウォーレス「鳥類の自然配列の試み」(1856)

「このような場合には、**配列 (arrangement)**は可能かもしれないが、しかし**分類 (classification)**はそうはいかないだろう。したがってわれわれは、区分 (division)の原理をすべて放棄し、接合 (agglutination) ないし並置 (juxtaposition)の原理を採用せねばならない。」

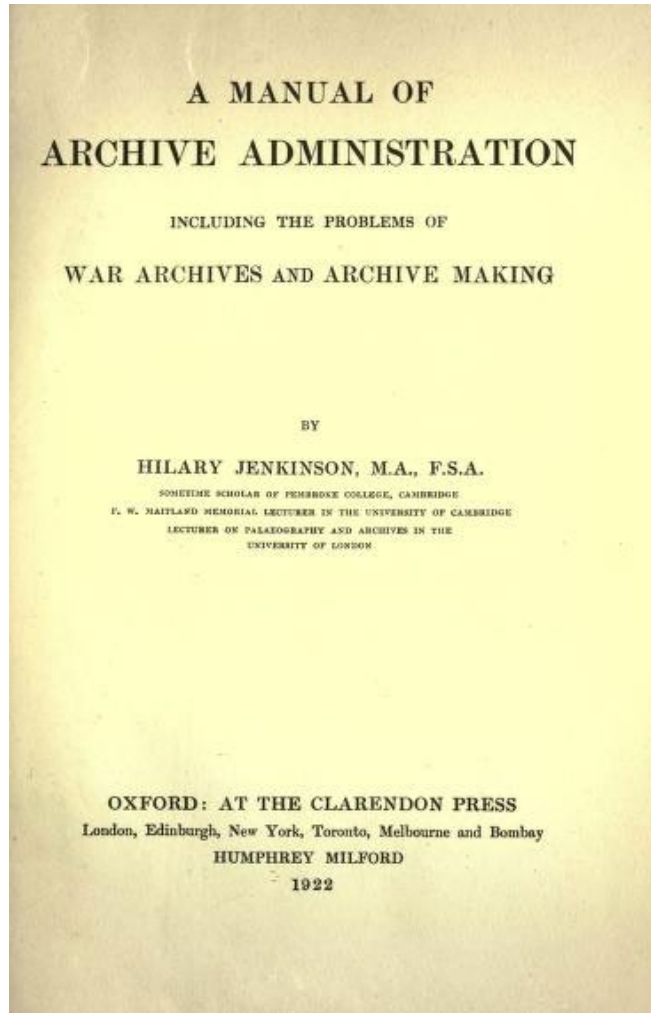
(新妻, 1997, p. 150)

1. はじめに：アーカイブズの組織化

- **classification**ではなく**arrangement**=進化論のイメージ
- 環境（業務）の変化に応じた変化：分岐したり消滅したりも
- アーカイブズは、業務の筋目にそってarrangeしよう！
- 1898年 オランダのアーキビスト3人によるマニュアル→
（通称「ダッチ・マニュアル」）出版
- 1922年 英国PROのアーキビスト、ヒラリー・ジェンキンソン
によるマニュアル出版



2. ヒラリー・ジェンキンソンの「マニュアル」(1922)



Jenkinson, H.(1922). *A manual of archive administration including the problems of war archives and archive making*. Clarendon Press.

Image from Internet Archive,
https://ia601600.us.archive.org/BookReader/BookReaderImages.php?zip=/27/items/manualofarchivea00jenkuoft/manualofarchivea00jenkuoft_jp2.zip&file=manualofarchivea00jenkuoft_jp2/manualofarchivea00jenkuoft_0007.jp2&id=manualofarchivea00jenkuoft&scale=8&rotate=0

2. HJのマニュアル： 出版の経緯

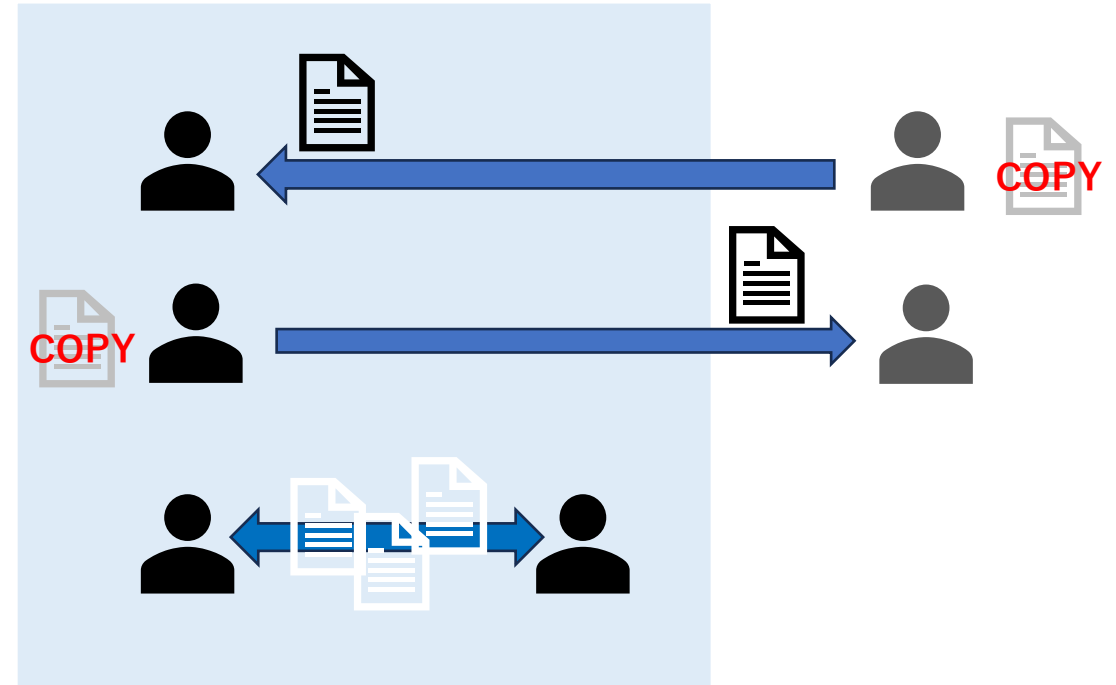
- 1911年～ カーネギー財団のプロジェクト
- 1914年～ 戦争で計画変更、「世界大戦の経済社会史」
- 1919年～ いろいろあって一部の成果をモノグラフの形で出版
- ジェンキンソンは「戦時のアーカイブズ」について書く予定だったが…

新しい問題は、古い問題のintensificationsに過ぎない！

- アーカイブズ業務全体のマニュアルに、戦時のこと&環境が激変する中でいかに未来に備えるべきかを盛り込んだ

2. HJのマニュアル：アーカイブズの始まりは…

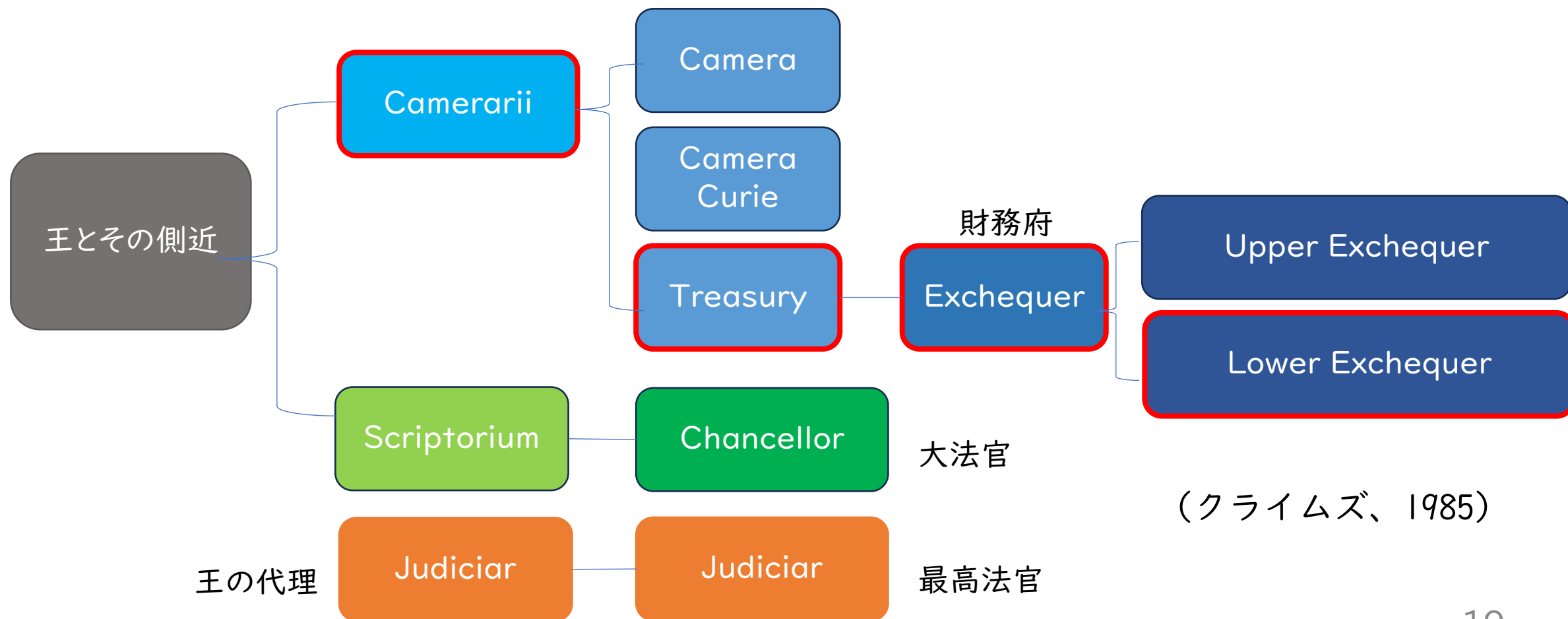
1. 受信したオリジナルの文書
2. 発信した文書の写し
3. 内部でやりとりする文書



最初は全部いっしょ→だんだん1と2が独立


2. HJのマニュアル：業務に沿って変化するアーカイブズ

英国国立公文書館所蔵、Lower Exchequerの記録（12c～1834）の事例



2. HJのマニュアル：業務に沿って変化するアーカイブズ

Upper Exchequer (以下、「UE」)：年2回の監査→Pipe Rollsに記録
(イメージ) <https://piperollsociety.co.uk/contents-and-use>

Lower Exchequer (以下、「LE」)：王の財産からのお金の出し入れ
ある時期から、Pipe Rollsをまねて、文書を巻物型
で管理するように 

2. HJのマニュアル：業務に沿って変化するアーカイブズ

領収証としてのTally sticks：（割符）





<https://www.nationalarchives.gov.uk/education/resources/unboxing-the-archive/tally-sticks/>

- 木片に情報を書き込んで2つに割り、半分を支払者に渡し、半分をLEが証拠として保存
- UEでの監査は割符でOK

2. HJのマニュアル：業務に沿って変化するアーカイブズ



割符で情報を管理するのはめっちゃ面倒だ！

- ①割符の内容を書いて巻物にしよう→Receipt Rolls 
- ②王の支払い令状も、オリジナルをバラで保存するよりは巻物にしよう
→Liberate Rolls 
- ③Liberate Rollsも簡易な写しがあれば便利→Issue Rolls 
- ④日々の入出金も書いておくと便利→Journalia Rolls 

2. HJのマニュアル：業務に沿って変化するアーカイブズ

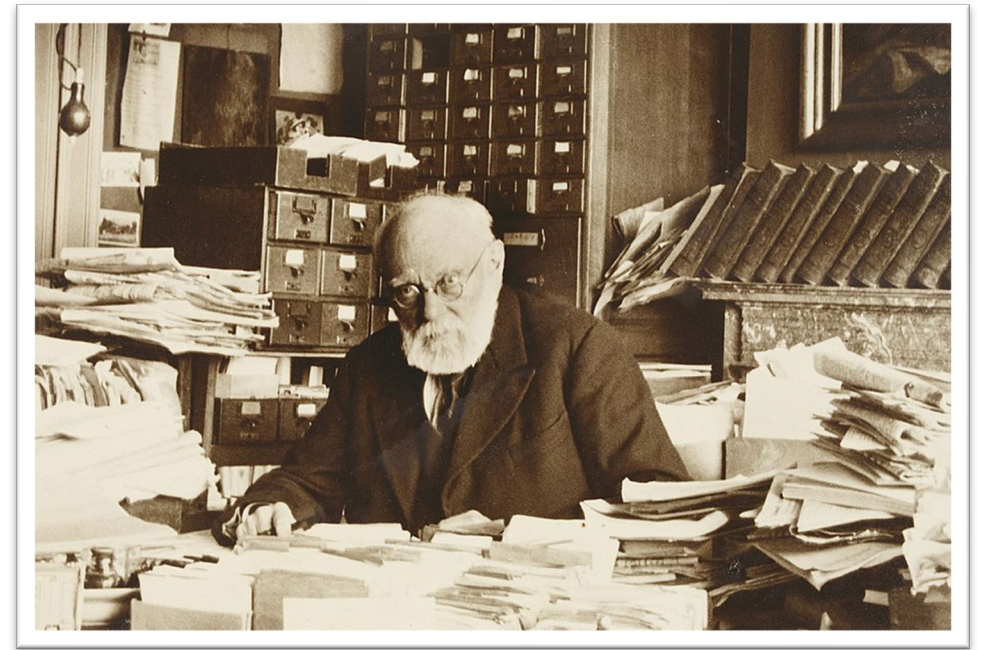
- アーカイブズは人びとの仕事のしかたに沿って組織化される
- 「有機的に生成するアーカイブズ」のイメージが業界に浸透
 - アーカイブズを、アーカイブズ外の分類体系に合わせて組織化するのは難しい
 - アーカイブズ記述は編成を反映：個別性（+）
 - 記述標準化の遅れにつながった
 - ユーザーも一定の知識が必要

3. ポール・オトレのマニュアル(何の?)

- Paul Otlet (1868~1944)
- 国際十進分類法 (Universal Decimal Classification) と「世界書誌目録」の人、というイメージ
- 一見、アーカイブズと相容れない人のようだが...

Photo: “Otlet to work in an office built at his home following the closure of the Palais Mondial in June 1937.”

Wikimedia Commons,
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Paul_Otlet_%C3%A0_son_bureau.jpg#file
Public domain.



3. ポール・オトレのマニュアル (業務ドキュメンテーションの!)

- 若いころから書類整理に関心 (Rayward, 1975, p.17)
- 1910年 Congrès international des archivistes et des bibliothécaires に参加・発表、アーカイブズ業界人と交流
 - * 会議直前に「ダッチ・マニュアル」フランス語版出版
- 1923年 International Congress of Administrative Scienceのためのレポート“[Manuel de la documentation administrative](#)”公表
- 1937年 World Congress of Universal Documentation (第1回、パリで開催) にはヒラリー・ジェンキンソンも参加 (Gilliland, 2014)

3. ポール・オトレのマニュアル: 読んでみると

- Documentation=文書化する機能&そのために使用される文書群
- Documentation administrative (仮に「業務ドキュメンテーション」)

=業務のツールキット

- 業務ドキュメンテーション: 管理職や職員に情報を提供し、あらゆる状況において情報に基づいた意思決定を可能にする
「工場が製品を生産するように、業務は文書を生産する。しかし、工場では製品が目的だが、業務においては、文書を伴い、文書に組み込まれることによってのみ実行可能な業務行為が目的である。」(p.2)
- 業務増・複雑化→文書量も増加し、適切に管理する必要(+++)

3. ポール・オトレのマニュアル: 読んでみると

ドキュメンテーションは:

- 今の仕事に必要なモノゴトがすぐ見つかるようになっていなければならない
- 「ある組織体の異なる部門に由来するすべてのアーカイブズとの有機的な関係を確立しなければならない」(p.4)

業務文書+業務文書の管理業務とそれに関するドキュメンテーション
=全部まとめて「ドキュメンテーション」

3. ポール・オトレのマニュアル

【オトレの解決策を簡単にまとめると…】

1. ドキュメンテーションを集中管理する部門を置くべし
2. 組織的に取り組む業務がカバーする領域に直接・間接に関連する諸問題（つまり、主題？）を総合的に分類してカードで整理・維持管理すべし
3. 組織の業務と人の総覧をカードで作成し、2の分類に沿って整理・維持管理すべし
4. 全てのファイルを3と関連づけるべし

ファイル自体は業務・人との結びつき重視
総合分類は世界的な知の体系に



3. ポール・オトレのマニュアル→ふたたび英国へ

- ヒラリー・ジェンキンソンもレジストリーでの集中管理復活を提唱
- 20世紀初頭：中央からの統制なしには、文書の増加、組織の脱集中化、技術の変化に対応できない状況
- WWI後、英国財務省 (Treasury) が省レベルでのレジストリー集中化を試み、主題分類を取り入れた (Craig, 2002)

4. ふたたび英国：業務の「主題分類」とレジストリー

- 財務省の文書管理：省庁内に複数のレジストリー、独自に文書管理
- 文書登録の原則は“one letter, one file”
- WWI後の1920年、Central Registry（以下、「CR」）を設置
- 文書登録の原則は“one subject, one file, one number”へ

※戦時中に行政の素人を大量雇用

→文書を探すには主題が役に立った経験から導入

4. ふたたび英国：業務の「主題分類」とレジストリー

- CRが省全体に適用する主題分類を作成し、カードで管理
- CRが主題を付してから文書は各部局へ
- 各部局の事務スタッフが、ファイリングと出納を担当
- ファイルは完結後CRへ

これで、うまくいくはずだったが…

4. ふたたび英国：業務の「主題分類」とレジストリー

- 収受文書を契機として始まる案件：その段階で分類するのは困難なことが多い→CRの分類に遅れ→業務の停滞を招く
- ファイルを検索して出し入れするのは部局の事務スタッフ→分類の適正さをCRは判断できない
- CRの分類と、部局の業務は次第に乖離
- 財務省の執務スペースが分散：コミュニケーション↓
- 必要なところに予算と専門性の高いスタッフがつかない

→1940年代には再び分散管理へ

5. おわりに



- 文書（アーカイブズ）管理の理想と現実
- 人員の配置、権限の分配、予算の配分、業務空間の配置など、様々な要因が影響を及ぼす
- アーカイブズはそれを作成・使用していた人々の「自己ドキュメンテーション (autodocumentation) 能力の反映」(Pavone, 1970, p.73)
- 現場でうまくいっても、後からめっちゃめっちゃになることも

がっくり



5. おわりに

アーカイブズの組織化（編成）に関するアーキビストの仕事は

- 資料群として目の前にあるアーカイブズの現実
- その背後にある、複数の層をなす現実



…に関する知識の交わるところで行われる

5. おわりに

- 1920年代の「厄介な問題」→じつは続いている？
- 解決策は似ているが、問題はつねに個別の厄介さを抱えている

→編成・記述の原則や方法論はある程度の解決にしかない

→しかし、厄介さがなければ専門性もいらない



5. おわりに

- オトレのDocumentation概念：ブリュッセル会議後アメリカへ (Gilliland, 2014)
- David BearmanがICAのアーカイブズ記述国際標準ISAD (G) 初版草案を批判した“Documenting **Documentation**” (1992)
- Helen Samuelsが体系的な資料収集を論じた“**Documentation Strategy**” (1986)

…といった言葉づかいには、なんらかの影響が???

5. おわりに

“Documenting Documentation” (Bearman, 1992)

- ISAD(G)の「アーカイブズ記述」は記録にフォーカスし、後ろ向き
- Documentation=記録を生成する活動にフォーカスし、生成の時点またはそれ以前に始まる
- 活動とドキュメントの関係性を捕捉し、documentすることが必要
- Documentationの結果として構築されるのは、
 - 活動のデータベースと
 - 活動が生成するドキュメントのデータベースを関連づけるシステム

→ISAD (G) 初版よりも、1920年代のオトレに近い

5. おわりに

ヒラリー・ジェンキンソン(1882~1961)

WWIでは従軍、フランスやベルギーに駐留。戦後は公文書館での勤務のかたわら「マニュアル」を書き、WWII中は公文書の疎開や、欧州各国のアーカイブズを戦火から守る活動に従事

ポール・オトレ(1868~1944)

知識の統合をとおした世界平和を目指して精力的に活動したが、WWII終戦前に世を去り、いったん忘れられたが80年代から再評価

5. おわりに

- アーカイブズ記述標準: ISAD (G) シリーズから Records in Contexts (RiC) へ = グローバルにリンク
- 近代諸制度に基づく考え方への批判: 修復的記述
= ローカル・個別的なケア

⇒ 分野や意見を異にする人が交流する意義

参考文献

- Bearman, David. (1992). Documenting Documentation. *Archivaria* 34, 33-49.
<https://archivaria.ca/index.php/archivaria/article/view/11839>
- S.B.クライムズ(小山貞夫訳).(1985).『中世イングランド行政史概説』創文社.
- Craig, B.L. (2002). Rethinking Formal Knowledge and its Practices in the Organization: The British Treasury's Registry Between 1900 and 1950. *Archival Science* 2, 111-136, <https://doi.org/10.1007/BF02435633>
- Gilliland, A.J. (2014). The Quest to Integrate the World's Knowledge: American Archival Engagement with the Documentation Movement, 1900-1950. In: Gilliland, A.J.(2014). *Conceptualizing 21st-Century Archives*. Society of American Archivists, 55-82.
- 新妻昭夫.(1997).『種の起原をもとめて ウォーレスの「マレー諸島」探検』朝日新聞社
- Jenkinson, H.(1922). *A Manual of Archive Administration*. Clarendon Press.
- Otlet, P.(1923). *Manuel de la documentation administrative. I. Principes généraux, rapport présenté au IIe Congrès international des sciences administratives*, Bruxelles, <ark:/12148/bpt6k1197945r>

参考文献

- Pavone, C. (1970). Ma e poi tanto pacifico che l'archivio rispecchi l'istituto?
Rassegna degli Archivi di Stato, XXX 1970, 1, 145-149.
https://archiviodistatomilano.cultura.gov.it/fileadmin/risorse/APD/Materiale_di_dattico/Archivistica_generale/Bibliografia/Pavone_-_Ma_e_poi_tanto_pacifico.pdf
- Rayward, B.W.(1975). *The Universe of Information: The Work of Paul Otlet for Documenation and International Organisation*. All-Union Institute for Scientific and Technical Information (VINITI).
https://monoskop.org/images/e/e5/Rayward_W_Boyd_The_Universe_of_Information_the_Work_of_Paul_Otlet_for_Documentation_and_international_Organizati_on.pdf
- Thomassen, T. (2001). A first introduction to archival science. *Archival Science* 1, 373-385. <https://doi.org/10.1007/BF02438903>

このプレゼンテーション内のURLはすべて2025-12-19最終確認